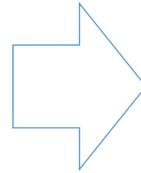


試験的な事例としてのSBIのST債

第1回無担保円建てセキュリティトークン(ST)債

- ・発行総額: 1億円
- ・社債券面: 10万円
- ・期間: 1年債
- ・利率: 0.35%
- ・格付: A⁻(R&I)
- ・社債管理会社: 三井住友銀行



※社債の決済・管理は通常、証券保管振替機構だが、ブロックチェーン上で行いibet for Finコンソーシアムが行う

※社債権者への特典として、10万円券面に対して10XRP(約180円分)の暗号資産を付与

敢えてブロックチェーンを利用するのは、将来のセキュリティトークン(ST)を想定

取りあえず投資家の注目を集める為

※ここまでは、普通の個人向け社債

※以上は、通常と異なる部分

見えてくる課題

セキュリティトークンの意義

何故、セキュリティトークンでなければならないか

- ・流動性
- ・権利移転コスト低下期待
- ・取引単位の細分化 など

投資家ニーズの把握

セキュリティトークンは魅力的な商品か

投資家はセキュリティトークンのどの部分にニーズがあるか

セキュリティトークンは、金商法上は電子記録移転権利と定義されるが、広く流通することを前提にしている為、証券会社等(第1種金商業)でしか扱えない。また継続開示義務を負う。